

[訂正] 869年貞観地震・津波発生時における 陸奥国府多賀城周辺の古環境

歴史地震, 第34号(2019) 127-146頁

東北歴史博物館* 柳澤 和明

[ERRATA] Ancient environment around *Mutsu Kokufu* Tagajo at the time of the 869 Jogan Earthquake
and Tsunami

Historical Earthquakes, 34 (2019) 127-146.

Kazuaki YANAGISAWA

Tohoku History Museum, Takasaki 1-22-1, Tagajo, Miyagi, 985-0062 Japan

本文(128頁)中において、1里のメートル法換算を誤っておりました。

1里のメートル法換算に関しては、その根拠を明示するのが少ないのが現状です。先行研究は少ないですが、筆者自身、1尺=29.7cmで換算した下記と同様の1里のメートル法換算値をすでに公表していました(柳澤和明 2007「玉造柵」から「玉造塞」への名称変更とその比定遺跡一名生館官衙遺跡IV期から宮沢遺跡へ移転—『宮城考古学』第9号, 宮城県考古学会, 135~154頁)。この拙論と以下の検討をしていたことを失念し、1尺=29.6cm, 1里=533m, 30里=約16kmとする通説(青木和夫 1992「古代の交通」「飛駅の速度」『日本律令国家論攷』, 岩波書店, 280~317頁)に依拠したという誤謬が本文中にありました。

1令小尺の最も信頼できる計測値は、正倉院北倉15の^{はくげのしゃく}白牙尺甲・乙に求められます。これは、1寸・5分・1分目盛を正確に刻み、素材のまま装飾のない実用的な1尺の象牙製物差しです。聖武天皇遺愛の品の一つで、^{てんむ}天武—^{じとう}持統—^{もんむ}文武—^{げんしやう}元正—^{こうけん}聖武—^{こうけん}孝謙と、歴代の天皇に伝世された^{せきしつぶんかんぼくおんずし}赤漆文櫛木御厨子に収納されています。奈良時代当時に使われた令小尺の基準原器に当たり、度量衡を統べる天皇の象徴を示しています。当初は白牙尺甲・乙とも1尺=29.6cmと計測されていましたが(関根真隆 1991『正倉院への道—天平美術への招待』, 吉川弘文館), その後、いずれも1尺=29.7cmと計測値が訂正され、これが当時の1令小尺の換算値と指摘されています(米田雄介 2018「赤漆文櫛木御厨子に収納の笏と尺」『正倉院宝物と東大寺献物帳』, 吉川弘文館, 152~169頁)。なお、1里の令小尺への法的根拠は、和銅六年(713)の度量衡制の一部改定で、1里=300歩=300×6唐大尺=300×6令小尺=1800令小尺と換算されます。

以上より、慎んで以下のように1里のメートル法換算を訂正いたします。読者の方々にはご迷惑をおかけしました。なお、この訂正は論文の主旨を大きく損ねるものではありません。

128頁目右段上から20行目~24行目

(誤)

史料1の「数十百里」は、数十里~百里と解される。和銅六年(713)制の1里=300歩=300×6小尺=300×6×29.6cm=532.8mで換算すると、50里=26.64km, 60里=31.968km, 100里=53.28kmとなる。

(正)

史料1の「数十百里」は、数十里~百里と解される。和銅六年(713)制の1里=300歩=300×6令小尺=300×6×29.7cm=534.6mで換算すると、50里=26.73km, 60里=32.076km, 100里=53.46kmとなる。

* 〒985-0062 宮城県多賀城市高崎1丁目22-1
電子メール: kz282to220yana@ybb.ne.jp